

抗議の要請文

3月2日の原子力潜水艦トピーカの横須賀入港に強く抗議する。横須賀は原子力潜水艦の母港ではない。原子力潜水艦トピーカはただちに横須賀港から出て行くこと強く要求する。

米海軍第7艦隊司令官 フィリップス・ソーヤー中将 殿
 在日米海軍司令官 グレゴリー・フェントン少将 殿
 米海軍横須賀基地司令官 ジェフリー・キム大佐 殿

神奈川県労働組合総連合
 新日本婦人の会神奈川県本部
 神奈川県商工団体連合会
 神奈川県平和委員会
 安保廃棄神奈川県統一促進会議
 原子力空母の母港化を阻止する三浦半島連絡会
 原水爆禁止神奈川県協議会

3月2日午後2時28分、ロサンゼルス級攻撃型原子力潜水艦トピーカが横須賀基地に入港した。今年の原子力潜水艦の入港は4回目、原子力艦船の入港も4回目で通算961回となった。現在、横須賀基地には、原子力空母R・レーガン、原潜トピーカの2隻の原子力艦船が滞港している。

ロサンゼルス級原潜は、ミサイル発射用の垂直発射装置（VLS）を搭載しており、対水上・対地火力投射能力を持っている。この垂直発射装置からは、TLAM（トマホーク対地ミサイル）、TASM（トマホーク対艦ミサイル）を運用することができる。

現在、北東アジアの情勢は、北朝鮮の核開発や弾道ミサイル発射で緊迫している。我々は、北朝鮮のこれらの行動を厳しく批判する。同時に、日米韓の大規模な軍事演習による威嚇行動にも反対する。これらの軍事行動が甚大な犠牲と破壊をもたらす戦争なることは、絶対に避けなければならない。今回の原潜トピーカの横須賀入港は、東アジアで一連の軍事的行動の中での入港である。

現在、平昌オリンピックを契機に、南北の対話の機運が広がっていることは、東アジアの緊張を打開する平和的解決の流れとしてわれわれは歓迎する。軍事一辺倒の「圧力強化」では打開できない。関係各国が北朝鮮との対話・外交交渉に踏み切り、その中で、北朝鮮の核開発やミサイル発射中止と放棄を迫ることが重要である。日米韓の軍事演習は中止すべきである。

2月2日、米政府は、「核態勢の見直し(NPR)」を公表した。この内容は、核兵器を「安全保障に必要」と正当化し、潜水艦発射ミサイル、陸上配備型大陸弾道ミサイル、戦略爆撃機の3本柱の近代化、小型核弾頭や核巡航ミサイルなどの開発を打ち出した。しかも、先制的な核攻撃も可能とする極めて危険なもので重大である。これは、核兵器のない世界を求める世界の人々への挑戦であり、核兵器禁止条約の流れに逆行するものである。私たちは断じて許さない。

今後、NPRの実施で、米原子力潜水艦に核兵器が搭載され横須賀基地に入港することが懸念される。核密約を直ちに破棄し、核搭載の有無を明らかにするとともに、非核三原則を国是とする日本の港に核兵器搭載艦入港は絶対に許されない。

首都圏は巨大地震発生の可能性が強まり原子力艦船の地震による原子炉事故も重大である。米軍は地震や津波による原子力艦船の事故対策を明らかにし、県民に情報を公開することを要求する。

横須賀基地を戦争の出撃拠点にし、県民を放射能被害の危険にさらす原子力艦船の母港化、入出港をやめること。原潜トピーカは横須賀からただちに出て行くことを要求する。

以 上